

2年C組 社会科 単元設計・学習指導案

指導者 萩山 知治

1 日時（場所） 令和5年7月5日（水） 13:30～14:20（2年C組教室）

2 教科領域別研究テーマ

主権者意識を持ち、よりよい社会や自分の姿を構想する学習展開の工夫

3 研究テーマ設定の理由

これからの社会は未曾有の事象の連続で、VUCAの時代になると考えられている。そのような社会において、「激しく変化する社会に適応していくこと」はもちろん必要だが、それだけでは社会そのものを「よりよく」変革していくことは困難である。そこで求められるのは、「激しい変化に積極的に向き合い、よりよい社会や自分の姿を構想し、その実現のために行動していくこと」である。そして、そのような社会を創り出していく際の資質・能力の鍵となる概念として「エージェンシー」がある。エージェンシーは、「現代社会の諸課題について、自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会変革を実現していく力」と捉えることができ、よりよい社会の実現のために多様な他者と連携、協働して課題解決を目指す上で不可欠なものである。それを身に付け、高めるためには、自分たちが選択・判断、構想したことが、実際の社会を改善したり変革したりすることができるという社会とのつながりを実感する学習を展開することが重要である。現実の社会的事象を扱うことのできる社会科の特性を生かし、自己の意見が社会に発信されたり、社会とつながったりして課題解決に貢献できるという自覚を高める学習を積み重ねていきたい。そうすることで、主権者としての意識を涵養していくとともに、「社会の変革を実現していく力」の育成に資すると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元設計（単元名：

(1) 単元目標

- 近世の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。
「知識及び技能」
- 近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
「思考力、判断力、表現力等」
- 近世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近世の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論している。	近世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(3) 指導計画（全7時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
一 次	1 本時 ・幕府の政治改革が必要になった要因について多面的・多角的に考察する。 ・考察したことを基に、単元の学習に見通しを持つ。	思 態		・幕府の政治改革が必要になった要因について、ICTを活用しながら多面的・多角的に考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート） ・近世の日本に見られる課題について、追究しようという意欲が高まっている。（観察）
	2 ・絵画資料から情報を的確に読み取り、産業や交通の発達の様子についてまとめる。	知		・江戸時代の産業や交通の発達の様子や変化を理解している。（ワークシート）
	3 ・中世の文化との比較に着目し、江戸時代の文化の特色をまとめる。	知 態		・中世との比較を基に、江戸時代の文化の特色を理解している。（ワークシート） ・江戸時代の文化の変化が与えた人々の生活への影響を追究しようとしている。（観察）
	4 5 ・幕府の政治改革における成果や課題、影響についてまとめる。	知	○	・幕府の政治改革における成果や課題、影響について理解している。（ワークシート） （支援）事象同士のつながりや変容に着目するよう助言する。
二 次	1 ・幕府の政治改革が必要になった要因について、多面的・多角的に捉える。	思	○	・幕府の政治改革が必要になった要因について、多面的・多角的に考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート） （支援）政治改革が行われた要因について、社会状況との関連に着目するよう助言する。
	2 ・近世の社会の変化の様子について考えをまとめる。 ・単元全体の学習への取組や方法を見直し、成長を振り返る。	思 態	○ ○	・パフォーマンス評価 ・単元前後の記述の変化や学習を調整する過程を評価することで、自己の変容を自覚し、次の単元への学習意欲を高めている。（ワークシート） （支援）ワークシート内の記述に対して、その成果を生徒にフィードバックする。

(4) パフォーマンス課題

単元を貫く問いを「戦乱のない世の中を迎えていたにもかかわらず、なぜ幕府の政治改革が続くのか。」とし、パフォーマンス課題を以下のように設定した。

あなたは近世史の専門家です。この度「近世史ジュニア辞典」の編集者として招かれ、「江戸幕府の政治改革」の項目の原稿の作成依頼を受けました。中学生に江戸幕府の政治改革の特徴が伝わるように「江戸幕府の政治改革」の項目の原稿を完成させなさい。ただし、原稿用紙に収まるように完成すること。

5 本単元と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒（32人）は前単元で、幕藩体制によって支配の仕組みが確立したことを学習している。4月に実施したアンケートによると、「自分自身の学びについて振り返り、単元を貫く学習問題への答えを記述することができる」と回答した生徒は29人であった。その一方で、「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤したり、次の学びや生活に生かそうとしたりすることはあるか」という項目において、「考えたことがある」「どちらかというところ」と答えた生徒は14名だった。また、「考えたことはない」「分からない」と答えた生徒が数名いた。そこで、本単元では、生徒にとって自分を客観的に把握し、効果的な学習を自ら見いださせるよう、単元全体の学びを工夫する必要があると考えた。

(2) 単元について

本単元「近世の日本」は、近世の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することをねらいとしている。この単元のうち、「B（１）ア（ウ）産業の発達と町人文化」「B（１）ア（エ）幕府の政治の展開」の２つの小単元を内容のまとまりとして捉え、単元の学習を展開していく。そこで、本単元では、「幕藩体制によって戦乱のない世の中を迎えたにもかかわらず、なぜ幕府の政治改革が続くのか」という単元を貫く問いに基づいて、江戸時代の社会的事象について、その成果と課題、政治・社会・外国・文化的側面など、多面的・多角的に考察するとともに、生徒自らが学びを自己調整する姿を目指したい。また、これらの活動を通して、「幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたこと」や「町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと」を理解することを目標とする。

(3) 指導について

AARサイクルとは、「学習者が継続的に思考を改善したり、意図的かつ責任ある形で行動したりすることができるような反復的な学習プロセス」である。そこで、本単元の学習では、生徒自らがAARサイクルをまわせるようになることを視野に、以下のような指導の工夫を行う。

ア 習得・活用を意識した単元構成とワークシートの工夫

単元を構成する際に、大きく「習得」と「活用」に二分し、知識及び技能の確実な習得の場と、それらを活用して思考・判断・表現する場を意図的に設定した。具体的には、単元の前半では、単元を貫く問いに対する小さな問いを毎時間提示し、その問いに対する自分の考えを記述する活動を通して知識・技能の習得を目指す。単元の後半では、思考ツールを活用して、これまで習得した知識・技能を整理し、根拠を明確に示しながら自分の考えを表現できるようにする。また、毎時間の授業の中で、他者との「対話」によってものの見方や価値観を新しくつくりかえる場を設定し、深い学びにつながるよう工夫した。さらに、単元の初めと終わりで自分の考えを比較したり、単元の展開の中でも学習の振り返りを設けたりすることで学びの軌跡やその調整の過程などを見つめながら、主体的に学習に取り組む態度を育成できるようにする。そして、これらの一連の学習プロセスに照らし合わせた一枚式ワークシートを使用することで、生徒が自分の知識・技能や思考・判断・表現を客観的に把握する力の育ちにもつなげていく。

イ 習得・活用の学習プロセスを効果的に生み出すICT活用

「習得」と「活用」は、一つの方向で進むだけではなく、知識および技能の活用がその習得を促進するなど、相互に関連し合って力が伸びると考えられる。そこで、本実践では、「知識・技能」の習得と活用をより効果的に往還させるために、単元の導入時に、複数の思考ツールを用いて思考を可視化する。まず、ウェビングを活用し、幕府の政治改革が必要になった要因や背景を定型文を用いてカード化して思いつく限り挙げさせる。次に、それらをXチャートを活用して、四つの視点（政治、社会、外国、文化）に分類して整理させる。この四つの視点は、安土・桃山時代の特色を追求する際にも活用したものである。さらに、推移の視点に着目し、整理した事象を年表に並べて時系列でまとめさせることで、事象同士のつながりや社会状況と改革の関連などに気付かせる。そして、これらの活動から読み取ったことを小集団で共有し、時代の特色を自分の言葉で表現できるようにしていく。以上の活動を通して、社会的な見方・考え方を働かせながら、事象同士のつながりやその変容を視覚的に確認しながら主体的に追究成果を表現することを期待したい。

ウ AARサイクルを効果的に生み出す単元構成の工夫

生徒が身に付けた力を繰り返し活用し、知識を関連付けていけるようにするためには、単元などの内容のまとまりを、生徒にとって意味や価値があり、充実したものとしてデザインすることが重要である。そこで、二年時に扱う歴史的分野の学習内容を大きく三つの単元に区分し、生徒の主体的な学びを段階的に保障していくようにした。具体的には、第一次を「近世社会の基礎がつくられるまで」、第二次を「近世社会の基礎の動揺と幕府滅亡まで」、第三次を「近代国家として発展するまで」とし、習得と活用が小刻みに繰り返される第二次までの学習プロセスを生かし、第三次では、学習問題の設定や学習計画の立案、学習形態や方法に至るまで、生徒自らの責任において決定させ、学習活動を進めていく。そうすることで、これまでの学びで得た知識をいかに使うべきかを自ら考え、見通しを持って主体的に追求できる姿を目指す。

6 本時の指導（1／7時間）

(1) 主 題 なぜ幕府の政治改革が続くのだろう。

(2) ねらい

○幕府の政治改革が必要になった要因について、ICTを効果的に活用しながら多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 展 開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・ 予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 学習課題を確認する。 (一斉)	5	○前単元の学習内容を振り返って、本単元や本時の見通しを確認しよう。 幕府の政治改革が必要になった要因を、多面的・多角的に考察してみよう。	○生徒に見通しを持たせるために、本時の授業の流れを説明する。
2 政治改革が必要になった要因についてまとめる。 (小集団)	10	○幕府の政治改革が必要になったと考えられる要因を挙げてみよう。 「□□□が幕府に政治改革をもたらした」 ・経済の発展にともなう出費 ・百姓一揆や打ちこわし ・政治批判や出版の禁止 ・外国船の来航や元役人の反乱	○効率よく情報を拡散させるために、ウェビングを活用し、定型文を用いてカード化して思いつく限り挙げさせる。
	10	○Xチャートを活用して、四つの視点（政治、社会、外国、文化）に分類して整理してみよう。 ・政治の動きと社会の様子に関することが多いね。 ・外国や文化との関係はあまりないのかな。	○多面的・多角的に時代の特色を捉えさせるために、四つの視点に着目して整理させる。
	10	○整理した事象を年表に並べ、時系列でまとめてみよう。 ・17世紀後半には財政難が見られ、幕府の政治改革が始まっているね。 ・幕府の政治改革と百姓一揆や打ちこわしには関連がありそうだね。 ・幕府の改革が失敗続きの中で外国船がやって来たんだね。	○事象同士のつながりや社会状況と改革との関連性に気付かせるために、推移の視点に着目して整理させる。
3 これまでの内容から読み取れることを話し合う。 (小集団)	10	○幕府の政治改革が必要になった要因をまとめてみよう。 ・江戸時代の初期に比べ、都市や産業の発展によって出費や財政難がおこり、徐々に高まる人々の不満や外国からの圧力にも対応を迫られたことなどが要因となっている。	◎幕府の政治改革が必要になった要因について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (ワークシート)
4 本時の振り返りをする。	5	○今日の活動を振り返り、自分の学びを自己評価してみよう。	○自分の学びを把握させるために、一枚式ワークシートに記入させる。

7 研究の視点

○ICTと思考ツールを効果的に組み合わせて追究活動を行ったことは、主体的な学びを実現する上で有効であったか。

